

2022(令和4)年度沖縄県若年性認知症支援推進事業
本人家族交流会 若年性認知症カフェ 報告書

若年性認知症カフェ

目的：若年性認知症カフェ内で、ご本人と介護家族の交流を深め、孤立しやすい若年性認知症のご本人と介護家族のネットワークづくりを促す。

当カフェの特性

- ・ 孤立する県内の当事者及びその支援者にピアカウンセリングの場を提供する。
就労型活動自助グループの活動の場として提供し、当日初めて参加される当事者とその家族との交流を、自助グループの方に積極的に行っていただけるよう依頼している。
- ・ 経験と技能を活かす場をめざす。交流会の場も活動の場として提供し、それぞれの活躍の場を増やすよう支援する。例：ギターや英会話などそれぞれの特技を活かした教室の開催等
- ・ カフェ内で当事者の意見を活発に頂く。施策へ反映されるよう、意見をまとめる。

1. 日時：2023年2月18日(土) 1回目：13時～14時 2回目：13時～14時 定員各6名程度
【会場】 新オレンジサポート室（宜野湾市普天間1-9-3）

2. 本日のプログラム 各1回：交流会（近況報告）

3. 参加者数 1回目 9人（内訳：当事者0名、家族5名、専門職4名）
2回目 11人（内訳：当事者3名、家族5名、専門職3名）専門職サポート含む

4. 当日の様子

月に一度の集い、近況報告からはじまり…「コロナで施設の面会は玄関先で少ししか会えないけれど、今は会う瞬間を楽しみにして施設に向かっている」「在宅で介護していて褥瘡一つない状態で過ごせること…たくさんの支援者の手を借りてケアが成り立っていることを子供達も理解して欲しい。」「子供達から衣服を誕生日に貰ったが、拘縮した身体の衣服の着脱には素材や衣服のしやすいタイプに拘るが、子供たちからは毎回文句を言うといわれるが、それを理解してもらうために、着替えの介助を実際に子供自身にさせてみた。やってみてストンと理解できることってある。」子供への介護の伝達・育てること…家族間の共通認識も大切というお話がありました。

5. 所感

介護を配偶者だけがしている家族が実際多いです。介護歴のある方でさえ最近子供へ伝達。介護の手法もやってみて工夫が生まれること、伝達する難しさを感じつつも子供たちを巻き込んでいるというお話し…2回目の会には初めての参加のご夫婦が来所されたので、先輩家族に引き続き15時から参加して頂き、相談に乗って頂きました。今月25日に行う一般講演会の案内もしました。お土産は 男性ケアマネージャー特性のチョコケーキを用意しました (^_^)。



以上